



2025年9月

あいしま号

株式会社アイシマ

横浜市瀬谷区御本町9279-43

☎045-924-6811

<http://www.aishima.co.jp/>

NEWS

1 スカイ訪問看護ステーションよりご挨拶

2 災害発生時の為に見直したい備え

スカイ訪問看護 ステーションよりご挨拶

こんにちは。スカイ訪問看護ステーションの小松と申します。今回は、当事業所についてご紹介させていただきます。

神奈川県大和市渋谷にあるスカイ訪問看護ステーションは、2008年の設立以来、地域の皆さまに寄り添った看護を提供してまいりました。

当ステーションでは、以下の理念を軸にしております。

1. 知識・技術・人間性を高め、安全・安楽な看護の提供を行う
2. 利用者の在宅状況に根ざした訪問看護を提供する
3. 訪問看護師として常に笑顔を絶やさない誠実な対応を行う
4. 清潔感と礼節を心がける

「心のこもった、優しい気持ちになる安全・安楽な看護」をモットーに、高齢者や障がいをお持ちの方、精神的なケアが必要な方など、さまざまな方々が安心して自宅で暮らせるよう、居宅介護支援事業所や医療機関と連携しながら訪問看護を通じて支援しています。

地域のケアマネジャーの方から「スカイさんの看護師さんは優しいからお願いしました」と言っていただけたこともあり、スタッフ一同とても嬉しく思っております。そんな言葉に支えられながら、日々の看護に心を込めて取り組んでいます。

当ステーションでは、まったく異なる趣味を持つスタッフが活躍しています。

ディズニーの世界観に魅了されている者、BTSの大ファン、自然の中で釣りを楽しむアウトドア派――



価値観やライフスタイルはそれぞれ異なりますが互いの違いを受け入れ、尊重し合いながら日々の業務に取り組んでいます。

その関係性が、無理のない協力体制と心地よいチームワークを生み出し、職場全体に温かさをもたらしています。その雰囲気を利用者様に安心感や優しさを届けることができるのではないかと考えます。同時に最新の知識を習得し技術を提供できるようスキルの向上に努めています。

地域の一員として、人と人とのつながりを大切にしながら、これからも「スカイさんに頼んでよかった」と思ってもらえる看護を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

災害発生時に命を守るために ～見直したい10の備え～

9月1日は防災の日。災害はいつ、どこで起きるかわかりません。
いざというときに命を守るためには、日頃の備えが何より大切です。
施設や家庭でできる基本的な防災対策を10項目に整理してご紹介します。

① 地域の災害リスクを知る

沿岸部では津波、河川沿いでは洪水、山間部では土砂災害など、地形によって災害の種類は異なります。

自治体が発行するハザードマップを活用し、地震・水害などのリスクを確認しましょう。

② 避難場所・避難経路の確認

避難所の場所や、災害ごとの安全なルートを地図で確認。

実際に歩いてみることで、倒壊の危険や浸水箇所なども把握できます。

③ 防災情報の入手手段を確保

気象庁や国土交通省の公式情報、防災アプリ、ラジオ、テレビのデータ放送など、複数の情報源を準備。

停電や通信障害に備えて、充電器や乾電池も忘れずに。

④ 災害の警戒レベルを理解しておく

災害時に「いつ避難すべきか」を判断するために、国が定めた「警戒レベル」を知っておくことが重要です。

これは、気象庁などが発表する防災情報をもとに、住民が直感的に行動できるように5段階で示されたものです。

特に注意すべきは「レベル3」と「レベル4」です。高齢者や避難に時間がかかる方は、レベル3の段階で避難を始めることが推奨されています。

レベル4では、すべての人が危険な場所から速やかに避難する必要があります。



Instagram facebook

アイシマの日常をSNSで発信



いいね！&フォロー
お待ちしております♪



警戒レベル	色表示	内容	行動の目安
レベル1	白	災害への心構えを高める	ニュースや天気予報に注意する
レベル2	黄	避難行動の確認	避難場所や持ち物を再確認する
レベル3	赤	高齢者等避難	高齢者や障がいのある方は避難開始
レベル4	紫	避難指示	全員が速やかに避難する
レベル5	黒	緊急安全確保	命を守る行動を直ちに取る

⑤ 家族との連絡方法を決める

災害用伝言サービスや集合場所の確認など、通信規制時でも連絡が取れる手段を事前に話し合っておきましょう。

⑥ 防災訓練に参加する

避難・消火・安否確認など、地域の訓練に参加することで、実際の動き方を体験できます。
施設でも定期的な訓練を行いましょう。

⑦ 地域とのつながりを築く

近隣の方との日頃の交流が、災害時の助け合いにつながります。

阪神・淡路大震災では、8割以上が近隣住民による救助でした。

⑧ 救急箱と応急処置の準備

病院に行けない状況を想定し、包帯・ガーゼ・等備え、簡単な応急処置を学んでおきましょう。

⑨ 家具の配置と転倒防止

背の高い家具は寝床から離す、ドア付近の家具は倒れても塞がない向きに。

L字金具や突っ張り棒、飛散防止フィルム等で安全対策を。

⑩ 備蓄品と電源の確保

水・食料・衛生用品などは最低3日分、できれば1週間分を。

停電対策はソーラー発電や蓄電池導入も効果的。

災害は「いつか」ではなく「いつでも」。

日頃の備えが、いざというときの命を守ります。

防災週間をきっかけに、施設でも家庭でも、できることから見直してみませんか。

編集部後記



今年も月見の季節がやってきました。
月と言えば中秋の名月ですね。
今年10月6日だそうです。
名月なんだからもちろん満月かと思いきや満月は翌日7日なんだとか笑
去年も満月ではなかったそうなの。